



ハラ & メイナ & ハビーハ・サラ



アブドゥッファー・アッティルバーニー



ハッサン・サイータル & イbrahim・クシヤー



イナース・サッカ



ナスル・ルバーフ・サラマ・シャラタ



エレン & シリン・アルハヤート



ナヘダ・ハリール・アントン & リマル・カマル・アントン



アナス & アフマド・ガバーイン

~ポスター・詩・エッセイ展~

GAZA FACES ガザ・フェイス

私たちは
数じゃない！

日時：2024年10月5日（土）～21日（月） 8:00-20:00
場所：東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟1F ガレリア

「ガザ・フェイス～私たちは数じゃない！～」は、2023年10月以降にガザ侵攻で亡くなられた方々の生前の写真とお名前、プロフィールをオンライン上に記録する国際的なプロジェクトです。
外大生が翻訳に携わり、「ガザ・フェイス」の日本語版作成が実現しました。
この度、初めてのポスター展を開催します。

【共催】TUFSパレスチナ連帯活動（主催），TUFSフィールドサイエンスcommons，東京外国語大学大石高典ゼミ，東京外国語大学坂井真紀子ゼミ，東京外国語大学アラビア語専攻有志
【協力】東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター，SHKRAN，GAZA DES VISAGES
【お問合せ先】TUFSパレスチナ連帯活動（tufsforspalestine@protonmail.com）
X: @tufs4palestine Instagram: @tufs4palestine

展示について

ガザ侵攻で亡くなられたパレスチナの人々の顔や名前は、多くの場合主要メディアで報じられることはありません。代わりに、毎日死者数だけが更新されていきます。

パレスチナの人々は、抑圧や暴力を受ける、あるいは外部からの支援を受けるだけの存在ではなく、それぞれに顔や人生があります。空手選手、詩人、大学生、農家さん...。厳しそうな皺をたたえて笑う人、無邪気に笑う子ども。この展示では、そういった方々に焦点を当てたいと思っています。

また、『現代詩手帖』2024年5月号や、PASSAGES THROUGH GENOCIDE (パレスチナの詩人・作家の綴る言葉を集めた刊行物およびウェブサイト) から引用した、パレスチナで生きることについての詩やエッセイを展示します。



“ わたしが 死ななければならないのなら
あなたは、生きなくてはならない ”

ーリファト・アルアリアル

“ わたしは、パレスチナについて書こうとした。それは彼との約束だったから。でもわたしのインクは震えて、ゆがんでしまう。彼がわたしの言葉を読むことは、もう二度とない。人間ー動物として、ひどい孤独を感じた。 ”

ーアリア・カッサーフ

いずれも、「現代詩手帖」2024年5月号より

会場マップ



東京都府中市朝日町3-11-1
東京外国語大学 府中キャンパス
研究講義棟1F ガレリア
(入り口入ってすぐの吹き抜けの中央通路)
西武多摩川線 多磨駅より徒歩5分

関連情報



ガザ・フェイス
SCAN HERE!



PASSAGES
THROUGH
GENOCIDE

TUFSパレスチナ連帯活動とは

2024年5月に結成された、東京外国語大学の公認学生団体。これまで、キャンパスでのデモ活動や、映画『ガザ＝ストロフ -パレスチナの吟(うた)-』上映などを通じて、パレスチナの情勢についての理解を深めるための活動を行ってきました。